

(第3種郵便物認可)

# オピニオン

厚生年金基金に加入している企業の経営者は、連帯保証している年金負債金額を確認し、力を合わせて解散に向けた行動を起こすことを願う。多くの年金基金は巨額債務を抱え、その額は年々巨大化している。だが基金の負債は簿外債務であるため、経営者の多くは連帯保証している事実から気づいていない。

## AIJ事件契機に

恥ずかしながら、私もAIJ投資顧問の事件が起きるまで、加入している「全国光学工業厚生年金基金」に巨額負債があることも、連帯保証の事実にも気づかなかった。AIJによる28億円の損失通知と神戸のタクシー会社の年金連鎖倒産の報道で、当基金と自らが



# 加入中小は負債の把握急げ

投機も国からの借金。当社の場合、23年間支払った積立金はゼロ。1億2475万円の追徴金を払わねば任意退を許さない仕組みになっていた。仮に基金が解散できて社員一人当たり75万円、4177万円を国に返済しなければならぬ。だがこれだけ資産を毀損させた常務理事は三菱UFJ信託銀行の検証の下、今後10年間4.5%と5.2%の高利回りを前提とした再建計画を進めようとしていた。直近5年間の利回りは好4.7%であり、基金継続ありきの計画に、なんら実現性を見いだせない。

## 連鎖倒産の危機

私は「全国光学工業厚生年金基金の巨額簿外債務から会社を守る会」を立ち上

げ、全加入企業の代表に資料を送り、40社に再建計画のざらさを説明した。そして6800人の積立金の監視保全を求めて、基金事務局にAIJによる損失の責任明確化と財政再建計画の妥当性を問う質問状を送った。7月5日に公開質問状が聞かれる。解散は企業負担が小さいが、加入企業の4分の3の同意が必要のため、実現できるかどうか定かではない。

この20年間で東京の中小製造業は半分以下に激減した。生き残った会社はバブル時代に浮利を追わず本業に力を注ぎ、地道に年金を積み立ててきた。そんな中小企業が連帯保証の事実さえも知らされずに、基金の投機の失敗で連鎖倒産の危機にさらされている。年金債務の恐ろしさは基金が破綻する最後の日まで借金の請求書が届かず、借金返済を先送りし、運営責任を誰も負わない点にある。本来、基金が赤字の時にこそ解散を討議しなければならなかった。どうか経営者は任意退の金額を基金事務局に尋ねてほしい。恐らく額の大きさに驚くはずだ。厚生年金基金の負債を自社の年金簿外債務と認識すること（東京都立川市高松町1

メトロール社長  
松橋 卓司



## 厚生年金基金問題

たく・はし・まつ  
80年(昭55)日  
大農卒、同年  
食品入社。98  
メトロール入  
5年専務、09  
東京都出身、  
54歳。